

生徒の探究活動への支援

茨城県立並木中等教育学校

粉川雄一郎

略歴

- 1998年3月 上越教育大学大学院 修了（理科教育）
- 1998年4月～ 茨城県立取手第一高等学校
（普／工／商 → 総合学科）
- 2006年4月～ 茨城県立つくば工科高等学校
※2005～2007年度
「目指せスペシャリスト（スーパー専門高校）」
研究開発指定校
- 2012年4月～ 茨城県立並木中等教育学校
※2012年度～現在
「スーパーサイエンスハイスクール」
（SSH）研究開発指定校

並木中等について

- 2008年4月 開校（前身 茨城県立並木高等学校）
創立当時から「一人一研究」
- 2012年4月 SSH第1期
『中高一貫教育を活かした理数系教育のカリキュラム開発と
自己組織化・進化する自立した学習集団の構築』
- 2015年4月 課題研究の単位化
- 2017年4月 SSH第2期
『中高一貫教育を活かした探究力・論理力を育成する
カリキュラムの開発』
- 学校設定科目「理数探究」「理数探究基礎」として先行実施

「課題探究」について

「課題探究」

- ◆全生徒が個人探究
- ◆26の「ゼミ」+「医学ゼミ」
 - ☆全教員で「ゼミ」対応
 - ☆水曜日7限
 - ☆4～6年次が混在(縦割)

「課題探究基礎」

- ◆文献検索
- ◆統計処理
- ◆問いの立てかた
 - ・テーマ設定

前期課程：ミニ課題探究（総合的な学習の時間の一部として実施）
（1年次）ユネスコスクール／SDG's
（2年次）身近な疑問を解決する
（3年次）つくば市の社会問題

「課題探究」の流れ

4年次（高1）

4月 ・ ゼミ配属

7月 ・ 構想発表会

12月 ・ (仮)探究報告書

1～2月 ・ 中間発表

3月 ・ 正式テーマ決定

5年次（高2）

4月 ・ 探究を継続

7月 ・ 中間発表会

11月 ・ 発表練習

12月 ・ 校内発表会

2月 ・ 論文提出

「ゼミ」活動

◆生徒同士が
各自のテーマについて
対話を重ね
「問い」を深める

◆構想発表会，中間発表会

- 2つのゼミ合同で実施
（文系ゼミと理系ゼミ）
- 文系と理系の
様々な視点からの助言

教員への展開

◆ 探究 ≠ 研究

inquiry research

◆ 指導 < 伴走

「いっしょに楽しむ」

◆ 生徒同士の対話

◆ 試行錯誤

「失敗してもいいじゃない」

「失敗から学ぼう」

評価について

1 成果物等の提出状況【課題探究担当者】

2 ゼミでの活動状況，探究ノートの取組等【ゼミ担当者】

科学研究部

- ◆部員約60名（各年次10名前後），顧問5名
- ◆テーマは各自の興味関心に委ねる
- ◆これまでの主な実績

ISEF 特別賞（アメリカ園芸学会賞3等）

「科学の芽」賞，「科学の芽」学校奨励賞

高校生科学技術チャレンジ 審査委員奨励賞，他

日本学生科学賞 文部科学大臣賞，科学技術政策担当大臣賞，他

全国高等学校総合文化祭自然科学部門での発表

各学会高校生ポスター発表

など

☆大学・研究機関等の先生方による指導・助言

☆生徒への問いかけ・支援・伴走